

2018年9月30日(日)朝10:10 主の聖霊降臨節第20 自由交歓会等
9月第5共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：ヨハネの証言;主の預言の言

聖書:ヨハネの黙示録 22章18～19節

＜口語訳＞

新約聖書409頁

ヨハネの黙示録 22章18～19節

＜新共同訳＞

新約聖書480頁

ヨハネの黙示録 22章18～19節

＜新改訳第3版＞

新約聖書502～503頁

ヨハネの黙示録22章18～19節

＜塚本訳＞

新約聖書824～825頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～17節が再臨と戒め啓示。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第22章18～19節から
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録22章18～19節；ヨハネは、主のこと
ばの絶対的權威を証言しています。

◇22:18～19；塚本訳；本書の權威に対する
ヨハネの証言

「18 私(ヨハネ)が凡て聞く者にこの書の預言の
言を証明する。もし誰かがこれに(何かを)
加えるならば、神はこの書に書いてある
災厄を彼に加え給うであろう。

19 またもし誰かがこの預言の書の言(から何
か)を省くならば、神はこの書に書いてある
生命の樹と聖なる都から彼の(受くべき)分
を省き給うであろう。

◇18節；ヨハネは、神からの黙示を真摯に受け
とめた。サタン(龍)と獣は、生きています。

⇒天使から神の怒りの黙示を受け、サタン(龍)
と獣(偽政治、偽預言・評論)との戦いの
黙示を受けては、神の真の敵は、サタン(龍)
であることにヨハネは気づかされました。

⇒サタン(龍)は、絶えず、神に反逆したのです。

- ⇒「**証明する(証しする)**」との**私(ヨハネ)の宣言(メッセージ)**は、自ら**神の幻(黙示)**を受けたとの**確信**に満ちたものであったのです。
- ⇒**サタン(龍)**らは、この**預言の書の言**に何かを加えることがあり、顕著な事例が、アダムとエバの誘惑のことばで、「本当に主はどのように仰せられたのですか」でした。
- ⇒**サタン(龍)**は、**主イエス・キリスト様**をも、荒野で3度試み、「これらの石がパンになるように命じなさい」、「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい」、「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう」と、**この預言の書の言・主の言**に書かれていないことを加えて、誤った道に導きます。
- ⇒罪人である私たちは、気づかない間に、**神**に逆らわせる**サタン(龍)**の霊に支配されています。そして、**この預言の書の言(聖書)**に対しても、自分の都合がよいように解釈して読むようになりやすいのです。
- ⇒旧約のエゼキエル書を日課で味わうと、私はイスラエルの人々のようにはならないと思いつ込んでいますが、本質は同じです。

◇18～19節;「ヨハネの証明・証しの内容」は、「もし誰かがこれに(何かを)加えるならば、神はこの書に書いてある災厄を彼に加え給うし」、「誰かがこの預言の書の言(から何か)を省くならば、神はこの書に書いてある生命の樹と聖なる都から彼の(受くべき)分を省き給う」という厳しい神の宣告で、ヨハネ黙示録が「神の偽りなき黙示」であることが、「証明されている・証しされている」ということです。

⇒**サタン(龍)**を筆頭に裁かれる人々にとっては、**ヨハネ黙示録**は、厳しい内容ですが、逆転の発想で**ヨハネ黙示録の宣言**に真摯に耳を傾けると、「この預言の書の言」に聴き従う者は、「**生命の樹**」に与り、「**聖なる都**」に導かれる、という**確実な約束**が保証されているということです。

⇒私たちは、**神の厳しさ**を認識しつつ、**神の御国・聖なる都**に確実に導かれる者です。

⇒ここでの誘惑は、「この預言の書の言(から何か)を省く」で、加えることと変わらないもの、**サタン(龍)**の同じ働きです。

- ⇒アダムとエバの誘惑でも、荒野の**主イエス様**の誘惑でも、加えると同時に何かを省いています。それは、**神への信仰**です。
- ⇒「**神信仰**」の欠如は、**サタン(龍)**の霊の誘惑と同時に、人が本質においてもつ**肉欲**の誘惑が頭をもたげます(Iヨハネ2:16、17)。この世の慾、肉の慾、目の慾、持ち物の誇り(暮らし向きの自慢)です。
- ⇒自分の思い通りの生き方を前面にだすと、自分不都合なことを「**省く**」誘惑に陥ります。
- ⇒もっと危険なことは、同じ「**省く**」姿をとりつつ、「**本質・実体**」を**隠す**ことです。
- ⇒この**預言の書の言(聖書)**に加えたり、省いたりする姿勢は、直接でなくとも、**真実・真理**がいとも簡単になされているのが、**サタン(龍)**、**獣(政治力、経済力、評論)**で黙示された闇の世で、**真実**は闇に葬られ、自分たちの主義主張が表面的繁栄を前面に立てて、うまくいっていない事柄に蓋をするのです。
- ⇒**ヨハネ**は、神の黙示の中で、偶像礼拝に始まる人間力を思いつつ、**サタン(龍)**が入る余地ない天の御国を待ち望んだでしょう。

結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～17節が再臨と戒め啓示。

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネ黙示録22章18～19節**は、**主の再臨**をこの**預言の書の言**ていることを軸に、これに加えても、省いてもならないと**語**っています。
- ⇒**ヨハネ黙示録**においては、**サタン(龍)**と**獣(政治的、経済的、評論力)**たちが、この世を支配しているのは、特に、**サタン(龍)**が天から投げ落とされ、終わりが近いことを知って働いているからで、**ヨハネ黙示録**は、**サタン(龍)**らの滅びだけでなく、新天新地をも描くのです。
- ⇒その流れの中で、**ヨハネ黙示録21章6節**から、**神の都の幻**から現実の世活に戻り、**主の再臨**を啓示され、**ヨハネ**は、これまで**神**が**黙示**された「**この預言の書の言**」を与えて下さった中で、**神**が「**この預言の書の言**」に書き加えたり、省いたりしてはならないとの命令を受けたのです。
- ⇒その背後に、現実社会で、今も働く**サタン(龍)**と仲間の力を**ヨハネ**は、強く意識したと思います。滅びの道でなく、救いの道に進み行くために、「**神信仰**」を省いてはなりません。